

# 西濃農林事務所の普及活動状況

平成25年5月30日現在

## 今月の重点活動

### ■トマト 海津トマト部会全員研究会開催

海津トマト部会全員研究会が、5月17日に開催され、次年産に向けて、台木選定、土壌消毒、土づくり、病害虫対策、肥培管理について研修を行った。

農業普及課からは、栄養診断結果（葉柄汁の硝酸態窒素、カリウム、リン酸濃度を月1回分析）を報告した。特にカリウムについては、葉先枯れ症軽減対策の研究成果（農業技術センター）に基づく施肥改善の取り組みを中心に説明し、生産者からの関心も高かった。

## 活力ある新産地づくり

### ■ブロッコリー 各地で栽培反省会開催

ブロッコリー栽培反省会と総会が、5月15日に安八部会、17日に大垣部会で開催された。

平成24年度の出荷量は、27,714ケース（前年比94%）、販売額37,166千円（前年比102%）となり、10月～12月の低温・積雪による出荷遅れ、3月の高温による品質低下により、栽培面積の増加（前年比114%）に相応する出荷ができなかった。また、市場から求められた12月下旬から1月の需要に対応できなかった課題も残り、今後の対策について検討が行われた。

農業普及課からは、24年度の品種試験、白黒ダブルマルチ試験結果を報告し、25年度の対策として、1月出荷に向けた低温下で肥大性の優れる新品種の導入、排水対策の徹底による定植遅れの回避などを提案した。生産農家からは、ほ場選定・排水対策の大切さ及び新品種導入に向けた他産地の動向などの勉強会を開催してほしいとの意見が出された。

## 売れる農畜産物づくり

### ■小麦 赤かび病防除と適期収穫に向けて

11月から2月まで低温傾向が続き、小麦の出穂期は、昨年同様に平年より遅れたが、3月から4月初めまでは暖かい日が多く、イワイノダイチは4月7日～19日と昨年より5日程度早く、農林61号は4月17日～5月6日と昨年並みまで回復した。

出穂後は再び低温となり、開花期が遅れて、赤かび病防除時期も遅れ気味となったが、JAと連携して適期防除の実施について支援し、開花期頃と、その7～10日後の2回防除が徹底され、現在の赤かび病の発生はほとんど見られない。

出穂期から成熟期までに必要な積算温度から判断して、収穫期は、イワイノダイチが6月5日～12日、農林61号が6月11日～22日と予想され、2品種の収穫期の差が小さいため、ほ場巡回による情報提供や施設稼働会議等により、適期収穫に向けて支援してゆく。

### ■WCS用稲 WCS専用品種「たちすずか」の試験栽培

「たちすずか」は、籾が少なく倒れにくい品種で、稲WCSとして期待されており、岐阜県でも普及を進めたい意向があり、現在WCS用稲を栽培している養老町の(株)笠郷営農センターで、試験栽培をすることとなった。4月26日に、生産者・県・JAの関係機関により、栽培の打ち合わせを行い、WCS用50a、採種用20aを作付することを確認した。

農業普及課からは、「たちすずか」栽培の目安を提示し、施肥試験の提案を行った。今後は、生育・収量調査を行い、栽培方法の確立に向けて支援していく予定である。

### ■きゅうり 天敵（スワルスキーカブリダニ）の利用

海津胡瓜部会では、昨年からの、ミナミキイロアザミウマの防除対策として、天敵（スワルスキーカブリダニ）利用の実証試験を行っている。平成25年産の半促成栽培では、2月に、生産者7戸が1.4haで放飼した。

農業普及課では、放飼後、定期的に害虫の発生と天敵の寄生状況を調査しており、効果確認と利用方法について検討し、生産者の適切な防除を支援することとしている。これまでの結果は概ね良好であり、化学農薬使用回数の削減にも繋がっている。

## ■甘長ピーマン 目揃会開催

5月21日に、海津甘長部会目揃会が開催され、今後の販売方針及び共選出荷規格の確認等が行われ、農業普及課からは、夏期の高温対策及び病害虫防除について支援した。

また、5月に入りアザミウマ類・アブラムシの発生が増えているため、ほ場巡回において、早期発見・早期防除の実施を呼びかけている。

## ■小松菜、グリーンねぎ、モロヘイヤ 下宮青果部会協議会各部会の目揃会開催

平成25年度の下宮青果部会協議会の目揃会が、小松菜部会は4月23日、グリーンねぎ部会は5月11日、モロヘイヤ部会は5月17日にそれぞれ開催された（F G水菜部会は5月21日に開催予定）。

葉物の価格低迷が続いている中、契約出荷など販売価格維持の取組み等が各部会で行われており、農業普及課からは、新年度の栽培に合わせた防除暦等について説明し、農薬安全使用と生産性向上について指導を行った。

## ■なし 病害虫の発生予察調査の実施

フェロモントラップによるナシヒメシンクイ、コカクモンハマキ、チャハマキの発生予察調査等を実施した結果について、巡回等により生産者に情報提供を行っている。

また、現在、黒星病が多発しており、研修会等で防除対策等について情報提供した。

## ■かき 摘蕾講習会開催

5月15日に養老町果樹振興会、16日に南濃町柿研究会の摘蕾講習会が開催され、農業普及課からは、摘蕾方法、新梢処理、病害虫防除対策について説明した。

研修後、実際に樹で摘蕾方法を実演し、各自摘蕾作業を行い、技術の習得を支援するとともに、太秋柿の栽培を進めるための技術情報を提供した。



【摘蕾研修会の様子】

## ■フランネルフラワー 春鉢花、出荷終了間近

フランネルフラワーの鉢花は、2戸で出荷が続き、萎れ等の発生は少なく、順調な販売ができています。秋出荷作型では、鉢上げ作業が始まっており、栽培支援を継続して行う予定である。

切花は、出荷がほぼ終了し、葉先枯れ等の障害もなく、出荷量は前年より大幅に増えている。



【鉢花の栽培状況】

## 戦略的な流通・販売

### ■クレール平田 役員会開催

クレール平田農産物直売所運営協議会の役員会が5月9日に開催され、今年の栽培講習会や感謝祭などの開催計画について検討した。農業普及課からは、消費者の望む新鮮な農産物の生産、販売に心がけて売り上げ増加につなげるよう説明した。

## 魅力ある農村づくり

### ■鳥獣害対策 猪鹿無猿柵設置状況の確認

5月13日に、岐阜大学野生動物管理学研究センター派遣職員の現地調査に、海津市役所担当職員とともに同行し、南濃町地内自治会長の案内で、昨年度設置した海津市南濃町内の猪鹿無猿柵の設置状況を確認した。

設置に際し、住民参加の誘導方法の聞き取り、今後の保守点検方法、網などの破損箇所や電牧の通電状態の確認等を行った。



【猪鹿無猿柵の設置状況】